

アジアの実践知を携えた行動人へ

AIBS 学会長 池島 政広

今、世界の経済は、中国経済の減速、そして原油価格の下落による資源国の経済の悪化などを受けて、先行き不透明な状況にあります。これに政治的混乱が拍車を掛けて世界の平和と繁栄に陰りが見えております。また、日本国内に目を向けると、企業の収益状況は良くなりつつも、先が読みづらい状況下で投資意欲の向上が見られず、個々人の生活の豊かさにも暗雲の気配が感じられます。

このような時代こそ、経済を牽引する個々の企業は、しっかりと各々のアイデンティティを確立し、その下に行動しなければなりません。この意味するところは、各企業が独自の価値創造のストーリーを創る必要があるということです。つまり、顧客に対して、付加価値のある商品やサービスをいかに提供できるかが大事なのです。この肝心の顧客になり得る人々が、元気なアジア地域には沢山おり、この市場をどう取り込むかが大きな課題になっております。

「アジアビジネスを国際経営戦略的な視点から研究した成果を相互に研鑽する場であると共に、アジアの繁栄に貢献できる人材の育成にも取り組む」ことをミッションとする AIBS 学会は、このような現代的課題に積極的に取り組んでまいりました。本学会では、アジアビジネスを成功裏に導く「アジアの実践知」を、アジア各地（中国、韓国、ベトナム、タイ）のセミナーなどを通じて蓄積しています。これは、産業界との信頼関係の下に、海外事業の失敗例を含めた沢山の生のケースを取り上げて論議してきた賜であります。

この実践知で大事なポイントは、第一に、「アジア市場全体を俯瞰する事業構想力」に関わることであります。中国市場一辺倒ではなく、大きな市場性が見込める ASEAN を含めたアジア市場全体を俯瞰して事業を構想する力を培っていく必要があります。それには、どのような顧客層を対象に、どこで研究開発し、さらにどのように生産・販売ネットワークを構築していくか戦略的に考え抜かねばなりません。第二は、「現地ニーズに応える商品開発力」に関わることであります。進出先の生活者の豊かさの視点に立って、現地ニーズにきめ細かく対応した商品の開発に向けた現地のパートナーとの積極的な連携が必要となります。正に、海外事業における現地化の問題であります。

このようなアジアの実践知を現実のビジネスに活かして、果敢に行動していきける人材の育成が大事になってまいります。前述した事業構想力を持つ人材、あるいは現地の制度や商習慣などを熟知して、現地化に対応出来る人材の育成に取り組んでいかねばなりません。この効果的な育成には、異なる価値観を持った人々が闊達に論議できるダイバーシティに富んだ場が不可欠であります。幸い、本学会には中国をはじめアジア地域から勉学意欲の高い大学院生が沢山所属しています。色々な業界のビジネスパーソンとの対話から新たなビジネスモデルが生まれてくることを切望しております。

3月5日には、インドネシアのジャカルタではじめてセミナーを開催いたします。人口が世界4位で、天然資源にも恵まれ、多くの日本企業が進出している魅力ある国であり、本学会としても注目しております。来年で、本学会は創設10年を迎えることとなります。これを機に、アジアの実践知の更なる深化、そしてこの知を携えた行動人の育成に向けて邁進してまいります。会員の皆様のご助言、ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。